

ヨミネスしばた

Yominesu Shibata News

議会だより

夏近し！
新しい暮らしに向けて走り出そう！



第147号

発行/新発田市議会
編集/広報広聴委員会



①新発田中央高等学校吹奏楽部の皆さん

子どもデイサービス事業(一時預かり)が使いやすくなります

- 新発田市子どもデイサービス事業条例の改正

<社会文教常任委員会>

- ・一月当たりの利用上限日数を5日から10日以内に拡大します。これにより、ほかの施設との併用で、一月当たり最大利用可能日が25日となり、県内でもトップクラスとなります。
- ・半日利用の料金(4時間以内)700円を新たに設けました。
- ・施行日は、令和5年4月1日です。



市消防団において「機能別団員」を創設します

- 新発田市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の改正

<総務常任委員会での質疑>

- Q 機能別団員のイメージは。
- A 能力や実情に応じて特定の活動のみに参加する。勤務されており、なかなか消防団として活動できない方などに対して、主に対応したい。

出産一時金が増額されます

- 新発田市国民健康保険条例の改正

4月から出産一時金の額が42万円から50万円に増額されます。(市の加算1万2千円分含む)



<社会文教常任委員会での質疑>

- Q 引き上げの財源は。
- A 令和5年度1年間限りの措置で国から1出産に当たり5,000円の補助があるが、令和6年度以降は後期高齢者医療から段階的に負担をいただく仕組みと聞いている。

川東コミュニティバス車両1台の入替えを行います

- 財産の取得(中型路線バス車両)
経年劣化に伴う入替えを行うため、中型路線バス1台を購入します。

宅地造成事業特別会計の閉鎖に当たり一般会計で土地を購入

<経済建設常任委員会>

宅地造成事業特別会計は、昭和55年度から住宅地の造成と売却を目的に事業を進めてきましたが、昨年11月に予定していた一般住宅地が全て売却したため廃止します。これに伴い、収益の見込めない菅谷地区と金塚地区の土地を一般会計で買い戻します。

除雪費が不足したため、予算の専決処分が行われました

- 除雪費

<経済建設常任委員会>

12月としては異例の大雪、1月には数十年に一度と言われる大寒波の襲来によって予想を超える除雪対応となりました。

令和5年1月に3億円、2月に3億円と2億5千万円の予算の専決処分をそれぞれ行いました。



主なものをご報告します。

定例会

物価上昇に見合う老齢基礎年金等の改善を求める請願を採択しました

< 請願の概要 >

年金額は年々削減され、今後も年金減額が続くならば、年金受給者の生活はますます苦しくなる。その結果、生活保護世帯への移行が増加し、住民税の減収とも相まって、自治体の財政圧迫を招く。

年金改革は待ったなしの状況である。国民の年金不安をなくして老後の安心をつくり、併せて自治体の財政健全化のために、来年度からは、物価の上昇に合わせた年金改定を行うことが求められる。

下記事項について、意見書を送付されるよう請願する。

若者も高齢者も安心して老後を暮らせるように、物価の上昇に見合う老齢基礎年金等の支給額の改善を行うこと。

「全国一律最低賃金制度などの実現にむけた」意見書の採択を求める請願を採択しました

< 請願の概要 >

個人消費の拡大につながる労働者への大幅賃上げ、最低賃金の引き上げと格差是正、そのための中小企業支援が必要である。

については、下記事項について内閣総理大臣及び関係各位に意見書を送付されるよう請願する。

- 1 最低賃金法を全国一律最低賃金制度に改正すること。
- 2 地域別最低賃金については、当面1,000円以上を実現すること。
- 3 最低賃金の引き上げにあたっては、中小企業に対する支援の抜本的な強化をはかること。



詳細およびここに記載以外の議案は市議会ホームページをご覧ください。

2月定例会

主な議案等に対する賛否の一覧

議第74号	新発田市過疎地域の持続的発展のための固定資産税の課税の特例に関する条例制定について	賛成多数
議第76号	新発田市特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について	賛成多数
議第77号	新発田市消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例制定について	賛成多数
議第88号	専決処分の承認について(新発田市一般会計補正予算(第11号))	全員賛成
議第89号	専決処分の承認について(新発田市一般会計補正予算(第12号))	全員賛成
議第112号	専決処分の承認について(新発田市一般会計補正予算(第13号))	全員賛成
議第90号	新発田市一般会計補正予算(第14号)	賛成多数
議第101号	新発田市一般会計補正予算(第15号)	全員賛成
議第113号	新発田市一般会計補正予算(第16号)	賛成多数

令和5年度一般会計歳入歳出

前年度比で約5.4%増とし、持続可能な健全財政を見据えた中で、4つの柱による施策をより力強く推し進めていくための超積極型予算となっています。4つの柱の主な施策を紹介します。

健康長寿

社会参加応援事業

生きがいがづくりの一環として、eスポーツ体験や市内の高等学校等と連携した農業・園芸体験を実施

少子化対策

こども家庭センター運営事業

豊浦地区公民館内において、母子保健と児童福祉の一体的な支援のマネジメント体制を構築

産業振興

蔵春閣利活用事業

新発田食文化の発信拠点として食のイベントや創作料理の提供を実施

有機資源センター長寿命化改修事業

加治川有機資源センターの長寿命化、ペレット製造、スタディ・ツーリズムに対応するための改修工事等

教育の充実

紫雲寺小学校整備事業

学校統合に向けた紫雲寺小学校整備にかかる実施設計等

歴史図書館アーカイブズ事業

歴史資源を次世代へ継承するため、寄附金等を活用し、所蔵資料の修復、デジタル化を実施

議員間で意見を交わした「自由討議」の内容です

デジタル化について

デジタル化がどのようになっていくか、論議が大事と思うが意見を聞きたい。

- ブラックボックスにしないため、我々も常に学習していかなければならない。
- 課題も多いと思うが、市民サービスにつながる。状況をしっかり見ながら、市民サービスの向上ができればと思う。
- 全国では、職員が個人情報を持ち出して忘れてしまうということがあった。その辺りも注意を。

健康長寿について

高齢者が元気で働く有業率という考えも入れると、社会参加や地域のコミュニケーションにつながると考えるがいかがか。

- 人と会い、社会参加をすることは健康長寿につながる。そのような行政の企画もしていただきたい。
- 健康長寿にかける市の意気込みは強くなっている。それを広めていく。
- ときめき週1クラブのように体を動かすことが一番いい。全市漏れなくやっていくことが大事。

後継者問題について

外部の方につながり、技を伝承してもらいたい。また、職に憧れる姿を見てもらうことが後継者につながると思うがどうか。

- 農業では、生活ができる収入確保が成り立てば後継者は出てくる。
- 単価、生産性を上げる農業にどれだけ近づけていくか。オーガニック、有機米といった付加価値を増やしていくことで人は戻ってくる。
- オーガニックについての発信を工夫しながら、若い方に農業へのきっかけができる仕組みをつくっていただきたい。

予算を審査・可決しました

令和5年度は、8年ぶりの超積極予算

令和4年度
約412.7億円

令和5年度
約434.8億円



対前年度
+ 22.1 億円
(+ 5.4%)

一般会計

予算審査特別委員会

【委員長】 中村 功
【副委員長】 水野 善栄
小川 徹 湯浅佐太郎
五十嵐良一 小坂 博司
三母 高志 中野 廣衛
宮村 幸男 石山 洋子

市長と一問一答 市長総括質疑

●市の正規職員の適正数について

Q 職員の療養休暇や時間外労働が増えている。仕事量も毎年増え、負荷も大きくなっているが正規職員数についての考えは。

A 現在850名で、昨年度にもう10名増やそうとしたが採用できなかった。令和5年はその分も含めて採用し、860名とするよう指示した。

Q 増えなかったのは途中退職も多いということ。どうお考えか。

A いろいろな事情がある。ハードワークや職場環境による理由で辞めることはほとんどない。

Q 市は人材を育成する場になってもいい。多くの人を採用し、新発田の活気、にぎわいをつくってほしいと考えるがいかがか。

A 同感だ。市も人材育成、人間教育の職場であつたら素晴らしい。そういう方向を目指したい。

●生活保護世帯のし尿処理に対する減免廃止について

Q 免除をやめ、今年10月から有料にすると説明があった。物価も上がっており、減免を継続していただきたいと思う。市長の考えは。

A この制度を改めることに変わりはないが、導入については物価高騰を注視し、推移を見ていきたい。

Q 物価高騰や生活の状況をみると減免を継続せざるを得ないと思うが、延期の決断は。

A もう少し物価高騰、社会状況等は勘案したい。

●雪害時の通学バス運行について

Q 冬期間の通学バスには片道2.5キロ以上という基準があるが、鳥穴方面のスクールバスについては経路上の下興野等の子どもも乗せてはどうか。

A 全体を見たときに不合理が出る。教育委員会から協議がないので、今のままやらざるを得ないのではないか。

Q 新発田も雪が降れば豪雪。小さい子どもには大変だ。基準の2.5キロを2キロにできないか。

A 全員をスクールバス送迎にすることは財政の問題も絡み、厳しい。全体を見たときに不合理が出る。ご理解を。

Q 雪が降ると親が送り、親が送れない子どもが歩いていく状況。子どもの安全を考え、ぜひ検討を。

A 一部は救えたが、他は救えなかったということではできない。冬期間、全員をスクールバスで送迎してはどうかという議論になったとき、財政の議論が出てくる。今の財政では、全員をスクールバス送迎にしてよいとは言えない。

討論

令和5年度一般会計予算について、賛成・反対の意見を述べています。

賛成

令和会 湯浅佐太郎

議第102号令和5年度一般会計予算は賛成する。コロナ後の政策をどのようにするかの大変な予算だ。健康長寿・少子化対策・産業振興・教育の充実と合わせて、防災対策・人口減少対策等多くの課題解決のために早急に全課で取り組んでいただきたい。

賛成

共道しばた 三母 高志

今予算は人口減少の課題やデジタル化の対応など行うことが求められている。こうした取組みと課題を市民と市、市議会が共有する必要がある。4月オープンする蔵春閣は観光の起爆剤として広く活用するべきだ。また教育の充実に努めていることを評価し賛成する。

賛成

つなぐ会 中野 廣衛

全体的にバランスの取れた予算案となっている。喫緊の施策では、全街灯、防犯灯等のLED化の取組み推進、他市町村に先駆け新たに設置する「こども家庭センター」や各種の子育て支援策等、素早い対応と的確な支援内容など評価し、賛成する。

反対

日本共産党 佐藤 真澄

前年度比5.4%増にも関わらずコロナ禍や物価高騰への支援策が見当たらない。市長公約の学校給食無償化どころか、新年度から8%も値上げされる。住民の安全・健康・福祉を保持する観点から、実態を調査し生活や事業に困っている人に届く支援を強く求める。

賛成

公明党 石山 洋子

行政評価結果を活用し優先取組みを決定した積極予算を評価。「こども家庭センター」設置は子育て世代に寄り添う伴走型支援に。脱炭素社会推進は新規事業に期待する。物価高騰、経済活動支援は急務であり、今後臨時交付金等を活用した施策を要望し賛成。

賛成

無所属 小柳はじめ

思いの外税収が落ちず交付金も潤沢だが、世界的な景気後退のトレンドから「最後の宴」になる可能性があり、今後は産業振興が地域間競争の肝になる。私立保育園の補助金支出問題は評価に値する。経営資源を手堅く使っており、予算編成としては妥当と判断する。

反対

無所属 青木三枝子

蔵春閣を核とした事業に1億円かけるのならば市民ギャラリーも残して市内回遊の一つに。新規事業支援だけでなく既存の店舗の事業継承支援を。生活保護世帯のし尿処理の減免廃止と下水道料金徴収の中止を。メンタル不調で長期療養中職員22名、正規職員増を。

7つの特別会計、2つの企業会計の予算を 審査、可決。主な議論は次のとおりです

【コミュニティバス事業】

Q 豊浦地区の利用が伸びないのは利用しにくいことに原因があると考える。ドア・ツー・ドアならとの意見もあるが、地域住民の声を聴き取り、反映させる機会はあるのか。

A ドア・ツー・ドアは高いハードルがあり、実現に至っていない。持続性を重視し、新発田版デマンド方式の展開を進めている。走らせて終わりではなく、利用者からの個別の要望や地域の検討委員会委員の意見をいただいている。全ての意見は反映できないが、可能な限り対応していきたい。



新しくなったあやめバス

【土地取得事業】

上館地内の土地については、一部を社会福祉法人(特養二の丸)の所有する大手町の土地と交換し、一部を売却する予定としている。

また、隣接する歩道用地は一般会計に売却し、それを土地開発基金に償還したい。

【水道事業】

Q 水道事業の収益が、前年度より1,519万円見込めない状況で、支出が4,374万円の増額となっている。様々な経費の中で新潟東港地域水道用水供給企業団からの受水費が2億3,950万円であるが、値上がりしたとの解釈で良いか。

A 購入単価そのものは上がっていない。企業団からの水を購入するに当たっては責任水量があり、ある程度の量は買わなければならない。近年、災害、漏水等もあるため、第3の水源として大切にしていきたい。



このほかに、特別会計には、国民健康保険事業、介護保険事業、後期高齢者医療、食品工業団地造成事業、藤塚浜財産区があります。企業会計は、下水道事業があります。(宅地造成事業特別会計は、令和4年度末をもって廃止となりました。)

会派代表質問

市長おしえて！ しばたの未来は？どこへ向かうの？

代表質問とは？

主義、主張を同じくする議員で構成された「会派」の代表者が、市長の施政方針や予算編成方針に対して質問を行います。

代表質問の内容を動画で視聴できます。市議会ホームページの「議会中継」から「本会議録画配信」を検索するか、スマートフォンやタブレットで二次元コードを読み取りご覧ください。



Q1 学校給食費の助成と無償化について Q2 収入保険制度の推進について

公明党 渡邊喜夫議員



- Q 保護者負担軽減のため、令和5年度から給食食材費値上がり分の補助、並びに将来的に無償化すべきと考えるが市長の見解は
- A 5年度は約8%値上げ。大幅な物価高騰となった場合、自主財源の措置を考えたい。無償化は毎年4億円以上必要。早期実施は難しい
- Q 収入保険制度は農業事業者のセーフティネットの役割を担う重要な制度。全国の市

町村における収入保険料等の補助の状況と推進効果は

- A 令和4年度12月末現在415市町村で助成。加入者数も急増。研究を進めるよう指示した

※他に軽自動車税の免除について質問した。



Q1 更なる産業振興のために具体的な数値目標の設定を

つなぐ会 阿部 聡 議員



- Q 産業など、施策に数値目標を設定すべきでないか。結果の明確な確認と市民の皆さんへの徹底的な周知も必要だ。
- A 新発田市総合戦略で各事業の数値目標を設定している。結果がたとえ目標に達せずとも、市民に分かるように伝えたい。
- Q プログラミング教育がうまくいっていないと聞く。民間の団体と協力してはどうか。
- A 今後、外部講師の導入をしたい。

- Q 自治会活動を支えるために補助金を増額すべきではないか。
- A 自治会・町内会活動は重要だが、補助金の増額等については検討していない。





Q1 産業振興について
Q2 防災対策としてコミュニティセンター整備を

◎ 共道しばた 入倉直作 議員



- Q 農業生産におけるこの度の肥料価格高騰について、国、県とも具体的な支援を示したが、本市の支援策は。
- A 経営悪化対応し昨年かかり増し経費の支援を行ったが、一自治体の支援で対応範囲を超えており国に県市長会等で要望していく。
- Q 旧紫雲寺庁舎跡地は紫雲寺地区の聖地でもあり多くの住民の願いでもあることから、

現在の更地にコンパクトで使い勝手の良い施設整備は考えられないか。

- A 旧紫雲寺庁舎跡地の活用は決定していないが、顕彰碑や記念碑は次世代に引き継いでいくようあらゆる方向から検討を進めていきたい。



Q1 海外でのトップセールスの展開について
Q2 閉校する藤塚と米子小学校の利活用について

◎ 令和会 比企広正 議員



- Q ウィズコロナ、アフターコロナに向け、市長は、2月にベトナムのホーチミンでトップセールスを再開したが、手応えの程は。
- A 経済成長が著しく、有望な市場になると感じた。ベトナムは、大半が外食であり、新発田産米のPRは大変重要になると感じている。
- Q 紫雲寺地域の藤塚小学校と米子小学校が令和6年度末で閉校する。利活用計画につい

での考えと今後のスケジュールについて。

- A 新発田市閉校施設活用庁内検討会議において、立地条件や地域の特性を考慮し、方針が定まった段階で、地域住民の皆様を示したい。



Q1 給食費・医療費・国保均等割の負担をゼロに
Q2 介護保険の負担軽減について

◎ 日本共産党 加藤和雄 議員



- Q 学校給食無償化に向けては
- A 実現の可能性について検討すべきものとして公約に位置付けた
- Q 令和5年度も給食費値上げ分を支援し保護者負担を抑えるべき
- A 国の支援策が示されれば検討したい
- Q 子ども医療費の通院を無料にすべき
- A 約7千万円の財源が必要。今後の状況を見極めながら検討したい

- Q 子どもの均等割は1人32,600円で大きな負担。市の支援で負担ゼロを目指すべき
- A 支援拡大に向け令和5年度中に必要な準備を進めるよう指示した
- Q 20億円を超える介護基金を取り崩し介護保険料引下げを
- A 基金を有効活用し負担軽減に努めたい



一般質問

今後の生活 どう変わる？どうなるの？

一般質問とは？

私たちの暮らしに関係する身近で大切な問題について、議員が市長や教育長に直接聞いたり、提案したりしました。

一般質問の内容を動画で視聴できます。市議会ホームページの「議会中継」から「本会議録画配信」を検索するか、スマートフォンやタブレットで二次元コードを読み取りご覧ください。



Q1 これからの自治会・町内会の運営について

Q2 コロナ禍における小・中学生の欠席の現状は

▶ 板倉久徳議員

- Q 自治会に求められる役割、負担感も増加し、担い手不足等の課題もあるが、行政の支援は
- A 「地域おこし協力隊」の導入、「地域づくり支援センター」の設置等、支援してきた
- Q 自治会アプリ等デジタル化の先進事例もあるが、新しい取り組みも検討しては
- A デジタル化等、自治会の負担軽減につながる仕組みを調査研究するよう指示する

- Q 起立性調節障害を理由に遅刻・欠席する児童・生徒も増加しているようだが現状と対応は

- A 増加している。スクールカウンセラー、相談員、学級担任等が問題解決に向け対応している



Q1 さらなる保育の質向上・環境充実にむけて

Q2 部活動の地域移行について

▶ 渡邊葉子議員

- Q 処遇改善臨時特例事業の当市への反映は？
- A 改善がみられるが更に国に働きかけたい。
- Q 保育士の確保・離職防止への取り組みは？
- A 従来の取り組みを継続し支援していく。
- Q こどもセンターのより良い運営について。
- A 支援員報酬を引き上げ1名増員する。
- Q 現状と課題、今後のスケジュールは？

- A 指導者不足や部活動数の減少等。協議を重ねたい。

- Q 地域移行による負担軽減の効果は？
- A 長時間勤務等教師の負担軽減に期待する。
- Q 指導者の確保・養成の計画は？
- A 各団体との連携、人材バンク等の構築を検討する。





Q1 地域活性化と分散型社会の実現について
Q2 暮らしを支える公共交通政策について

▶ 五十嵐良一 議員



- Q 地方回帰志向が徐々にではあるが高まっていることから、逆人口移動が起きると考えられる。新発田市の受け入れ体制について
- A 地方都市の持続可能なまちづくりのために超積極予算により、子育て支援や教育環境の充実、各種の移住支援施策等を進めたい
- Q 高齢化社会における地域公共交通のさらなる便宜を図っていくための市のコミュニティバスやデマンド交通等とJRとの連携について

- A 高齢社会が進む中、利用者側の利便性や運行側の効率性、将来への持続可能性を考慮し、各公共交通と連携した運行方式を展開していく



Q1 市営墓地の必要性と新発田市の認識について
Q2 持続可能な市民生活のための除雪について

▶ 三母高志 議員



- Q 高齢化、多死社会をむかえ、当市でも約1,300人の方が亡くなられ、市営墓地を希望する市民もいる。その声を調査してはどうか。
- A 問い合わせは年3件程度。市は寺院や自治会管理の墓地等を把握している。現状調査を行う考えは無いが、市民の声が必要と判断すればスピーディに対応したい。

- Q 冬季間の機械除雪後の自宅前除雪は高齢者世帯には過酷な作業だ。キネス天王入居団体のスキルを活用した支援を検討できないか。
- A 関係各課が一丸となり課題解決に取り組むとともに、キネス天王のテーマとは異なるが声をかけてみたい。



Q1 マルゲン閉店による買い物難民への対応は
Q2 シルバー人材センターの支援要望への対応

▶ 青木三枝子 議員



- Q 市街地を住民が生活できるようスーパーを誘致して頂けないか
- A 「とくし丸」事業を行うウオロクから、今回廃業したスーパーの周辺住民から「とくし丸」の運行の要望があり、新たな販売場所で移動販売を始めるきっかけになったと聞いている
- Q シルバー人材センターへの補助金は平成29年からかわっていない。会員確保等努力さ

- れている。補助金を増やして頂けないか
- A 会員数も減っていることであり今は考えていない
- Q インボイス制度によって新たな税負担が生じる可能性があることについて
- A 国が制度について見直しを進めている





Q1 学校職員の働き方改革について
Q2 「10万人都市」復活をめざして

● 小坂 博 司 議員



- Q** 教職員の長時間労働が問題となっている。学校現場の負担軽減をめざし、学校給食費を自治体に組み入れる「公会計制度」導入の考えは？
- A** 国が進める「地方自治体基幹業務システム」の令和7年度統一標準化に合わせ、公会計化も検討していきたい。

- Q** 当市がこれまで取り組んできた「子育て支援」を高く評価するが、近年の急激な人口減少を市はどのように捉えているか？
- A** 転出超過となっている10代・20代の若者に対して、当市に振り向いてもらえるための取組みを充実させたい。



Q1 コロナ「5類」への引き下げは危険すぎないか
Q2 3歳児健診時の眼科検査の状況について

● 佐藤 真澄 議員



- Q** 5類引き下げは「コロナは終わった」との誤ったメッセージを広げることになる。市長の見解は。
- A** 国は変異株が出現した場合、直ちに見直すと明言しており、必要と判断した時は迅速に対応する。
- Q** ワクチン接種の公費負担等、国が実施しない場合は市で行うべき。
- A** 国・県の4つの方針に基づき進めるが、市

- 独自の対応が必要な際は迅速に実施したい。
- Q** 令和4年度から3歳児健診時に眼科検査を実施しているが、状況・今後の方針について。

- A** 11月から開始した。弱視の早期発見・早期治療に確実につながっている。



Q1 持続可能な消防団組織と操法大会の必要性は
Q2 将来に向けての市内中学校統合について

● 小柳はじめ 議員



- Q** 総務省は「大会前提の訓練が参加の阻害要因」と批判し、操法大会不要論が話題となったが今後の方針は
- A** 問題点は認識しているが決定権は消防団にあり、事業見直し検討委員会の結論を尊重したい
- Q** 防災全般で重要性は高まっており、待遇改善に併せて尊敬される組織へのイメージが必要では
- A** 地域住民をはじめ子ども達から憧れの存在となるよう広報に力を注ぐ

- Q** 小学校は目処がついたが加速する少子化で中学校統合も準備すべきでは
- A** 複式学級化の恐れは当面無く小規模校の利点も多い。広域統合は通学時間が長くなり、現時点では考えていない



消防ポンプ操法大会



Q1 再生可能エネルギーの拡大に向けて
Q2 中心市街地の再開発について



▶ 小林 誠 議員

- Q ゼロカーボン達成に向けた取組みは
- A 防犯灯のLED化、公用車の電気自動車導入から始め、令和5年度に計画を策定する
- Q 新発田は小水力発電の適地と考えるが、市の考えは
- A 小水力は一番力を入れたいが、自治体独自の事業化は難しい
- Q 山林の間伐、管理によりバイオマス原料やJクレジットに取り組んでみては

- A 間伐材に限界があるので難しい
- Q 空きビルを撤去し、コンベンションと宿泊施設を兼ねた複合施設で再開発をすべきと思うがいかがか
- A コンベンションは私も昔考えた。空きビルの撤去は、事業者の提案に対し応援をしたい



Q1 屋根雪除雪助成を見直し、人口対策としては
Q2 輸入飼料が高騰している窮地を支援すべきだ



▶ 宮村 幸男 議員

- Q 屋根雪除雪助成は福祉制度だが、豪雪地帯は人口減少が大きい。規定を見直し若者同居宅でも申請を可能にし雪対策を強化すべきだ。
- A 公費負担する上で条件設定は必要であり、公助の前に共助による対応をする現在の制度が適切と考える。
- Q コロナ後、飼料や粗飼料の高騰が激しく経営が圧迫され窮地に立たされている畜産農

家に、今一度飼料への支援をすべきでないか。

- A 市は酪農、肥育農家を含め第1次産業経営体に1億円以上を支援した。この間、粗飼料価格は1.5倍に高騰、コスト削減は酪農家にとり重要と認識している。



Q1 「ゼロカーボンシティ宣言」の課題は
Q2 保育園や小中学校等のトイレ洋式化について



▶ 中村 功 議員

- Q 再生可能エネルギーの活用はどのように考えているか。
- A 太陽光や風力、水力、バイオマス、水素等特性と課題をみながら進めたい。
- Q 再生可能エネルギーの設置を規制することに対する考えは。
- A 条例で規制せず国のガイドラインを遵守させ、地域住民と良好な関係となるよう指導していく。

- Q トイレの洋式化が進んでいる。保育園等の洋式化をどのように考えているか。
- A 現状は充足しているが状況をみながら進める。
- Q 小中学校のトイレの洋式化についてはいかがか。
- A 校舎改良事業に併せて整備していく。





Q1 人口減少・女性の命と健康を守り、女性活躍の推進を



石山 洋子 議員

- Q** 女性の命と健康を守る視点から、子宮頸がん9価ワクチンの定期接種対応と周知の方法について
- A** 接種ができるよう準備を進めている。資料を個別に送付し、市ホームページ等で周知する。
- Q** 女性の経済的自立、就労支援の視点から、女性デジタル人材の育成について
- A** 積極的に取り組むべき。どのようにデジタ

ル人材を育成していくか検討を指示した。

- Q** 女性の移住・定住・地域おこし協力隊の視点から、任期終了後の支援について
- A** 女性の移住・定住施策は重要。地域おこし協力隊の任期終了後の就業サポートに努める。



インターネットで生中継します！



市議会ホームページでは、本会議のインターネット生中継を行っています。パソコンやスマートフォンなどで本会議の様子が視聴できます。また、本会議終了後概ね1週間後には、録画映像も配信しています。

なお、ご視聴の際は、市議会ホームページに掲載の「ご利用案内」等をご確認ください。

本会議の生中継は、本庁舎1階ロビーのモニターでも行っています。ぜひご覧ください。



研修・視察の報告



豪雨被害に対応し、 やれることからやる

◎第9回議員政策勉強会<1月16日(月)>
本庁地区における雨水の現状と対策

講師 地域整備課課長 大滝 一仁 さん
維持管理課課長 穴水 雄二 さん
地域安全課課長 見田 賢一 さん
下水道課課長 星野 茂樹 さん

令和2年7月30日～31日にかけての集中豪雨は朝8時台に下羽津で1時間に42mm、11時台で50mmに達した。また、令和4年8月3日～4日にかけては隣の関川村で1時間雨量が161mmを記録した。いずれも昭和41年の「下越水害」、昭和42年の「羽越水害」を上回る量だ。

当市でも主に東新町・豊町・緑町・舟入町などで、道路冠水や床下浸水などの被害が出た。また、8月4日には土砂災害の危険があるとして、菅谷地区・五十公野地区に避難指示が出た。

この豪雨を受けるかたちで、令和2年9月議会でも5件、令和4年9月議会でも8件、一般質問で豪雨・防災対策について質した。二階堂市長は「根本的な対策は中田川の改修」としながら、市としての短中期的対策として「雨水幹線の維持管理はもとより、排水ポンプ車導入、市消防団のポンプ車活用、田んぼダムの普及、豊町では地下に雨水調整池設置などを進める」と答えた。また、県に対しては「排水機設備改修においてポンプ始動の遠隔操作シ

テム配備、中田川堆積土砂の撤去を強く要望する」と加えた。

そもそも、なぜこのような状況となるのか。担当課から対策の詳細が令和5年1月の議員勉強会で示された。

<歴史的背景と現状>

飯豊連峰と日本海の海岸に挟まれた低湿地が「蒲原」で、江戸時代以降の近世に瀬替・開削で潟や沼を埋め立てて農地としたため、低地はさらに増えた。「下越水害」「羽越水害」後、内の倉ダム・加治川治水ダム、道賀・西名柄排水機場、新発田川放水路・赤沼川排水路などを順次整備した。現在、太田川改修事業を進めており、中田川改修は要望中。

近年の雨は気候変動により、山間部から市街地へ、長雨から短時間豪雨へシフトしている。また、国道7号の内側がほとんど宅地化され、田んぼがなくなり湛水能力が落ちている。

<対策>

大きく3つに分けて鋭意、推進中である。

「ためる」=公園地下調整池整備、田んぼダム普及、調整池管理など

「そなえる」=ハザードマップ周知、自主防災組織支援、防災意識啓発、避難訓練・防災訓練など

「ながす」=排水ポンプ車配置、内水排除ポンプ設置、消防団所有ポンプ車活用、排水機場遠隔操作による排水迅速化、雨水幹線整備など



視 察

共道しばた

富山市ゼロカーボンシティ、エネルギービジョンについて
2月7日(火) 富山県富山市

東町・東新町公民館小水力発電所
常西公園小水力発電所(写真上)

近畿大学(水産研究所富山実験場)と連携した養殖漁業の
取組について(特にサクラマス養殖等)

2月8日(水) 富山県射水市
堀川漁業協同組合
近畿大学水産研究所富山実験場(写真下)



請願・陳情の処理経過及び結果

議会で採択された請願や陳情について、その処理経過や結果について、15件の報告がありました。そのうち、3件についてお知らせします。

請 願

件 名 第3次勧告の完全履行により悪臭発生を止める措置を求める請願書

採択年月日 平成30年3月13日

処理経過の概要

令和3年度以降は、①事業者の経営体制の刷新による意識改革の成果、②もみ殻の使用及び換気方法の変更による敷料改善、③ミスト散布の効果などにより、悪臭防止法の規制値を超える臭気回数が大幅に減少し、第4次改善勧告による悪臭低減の効果が現れていると考えている。

住民とは、2か月に1度の検討委員会や年1回の住民説明会を開催し、臭気測定結果や立入検査の状況、悪臭対策の効果・検証などの意見交換を行っている。

また、令和4年11月15日には、総務常任委員会7名の市議が農場視察を行うとともに12月28日には、平成21年10月以来、2回目となる住民代表2名が市の立入検査に同行し、代表取締役との意見交換を実現した。

事業者においては、県の指導に基づき、排気口やシャッター、電柱ネットにミスト噴霧装置を設置するとともに、冬期間の敷料やもみ殻が不足しないよう敷材を十分確保し、臭気を発生させない対策強化に努めている。

令和4年度は、住民と事業者が直接意見交換をしたことで互いに顔が見え、関係改善に向けて大きく前進した。

今後も継続的に住民による農場立入と意見交換を行うとともに、第4次改善勧告の履行状況と対策の効果・検証をし、県と協力して臭気改善に向けて事業者への指導に努めていきたい。

陳 情

件 名 「蔵春閣」の附帯施設整備への早期着工と一体的な利活用の早期実施に向けた陳情書

採択年月日 令和3年9月21日

処理経過の概要

附帯施設早期着工の陳情を受け、令和4年2月補正予算成立により関連予算が確保され、蔵春閣附帯施設等整備工事は、令和4年度末(令和5年3月末)の整備工事完了を目指し、順調に工事が進められている。なお、蔵春閣の一般公開は令和5年4月29日とすることが決定している。

利活用に関する市民意見の聴取については、蔵春閣移築事業説明会の開催、利活用方法について市民意見を募るアンケート調査を実施した。聴取した意見等内容については、蔵春閣利活用基本計画策定に向けた参考資料として活用し、内容に反映させた。

請 願

件 名 市民文化会館における「4階席区分化」を求める請願書

採択年月日 平成28年6月29日

処理経過の概要

4階席を使用しない一部使用時の料金設定(全席使用の70%)については、令和元年度に条例改正を行い、令和2年4月1日から施行している。

また、4階席の客席を仕切板やロールスクリーン等で覆うなどの設備の設置については、令和3年度に、汚れや埃などから客席の表面を保護する目的も含め、4階席を保護幕で覆うことで客席の区分化を行った。

議会からのお知らせ

6月定例会日程予定

日	月	火	水	木	金	土
6/11	12	13	14	15	16	17
	本会議 (提案理由説明)			本会議 (一般質問)	本会議 (一般質問)	
18	19	20	21	22	23	24
	本会議 (一般質問)	常任委員会 (総務) (社会文教) (経済建設)				
	議会運営 委員会					
25	26	27	28	29	30	7/1
	議会運営 委員会		本会議 (議案等採決)			

※請願・陳情の提出期限は6月5日です。
 ※変更等の場合は、ホームページ・エフエムしばた等でお知らせします。
 ※一般質問2日目及び3日目は、一般質問の通告議員が多い場合に行います。

本会議を生中継しています

本会議（定例会のみ）の開始（午前10時）から終了まで中継しています。

①FM放送

エフエムしばた（76.9MHz）で生放送します。



②インターネットサイマルラジオ

右の二次元コードまたは、エフエムしばたのホームページのバナーから聴くことができます。



③インターネット生中継

市議会ホームページで生中継します。



下の二次元コードまたは「新発田市議会」で検索し、「本日の議会中継」からご覧ください。

市議会ホームページはこちらから

新発田市議会



<https://www.shibata-shigikai.jp/>

傍聴者の声

本会議の傍聴者からいただいたご感想を紹介します

令和6年度に自治会長になるよう言われ、不安を感じていましたので傍聴に来ました。

自治会活動を進める時、行政側のサポートがあるとの市長さんの発言に、安心を感じることができました。

自治会アプリが、令和6年度には使えるようになればうれしいです。



みなさんも傍聴にお越しください！

【お詫び】前号第146号表紙の写真①の説明中、「平成4年12月16日」は「令和4年12月16日」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。



SHIBATA TOPICS

キラキラ輝く若いチカラ



心を一つに音楽で人々に喜びを！



写真説明／表紙①取材に伺った日は、平日の放課後練習。音の響きや音程などに気をつけて基礎合奏をした後に、1曲演奏を聴かせていただきました。②「集中して音をだそう！」と指導する上山先生。③指揮者に注目し合奏に参加する生徒。④⑤昨年12月に行われたチャリティーキャンペーンのコンサートは42回目となった。⑥取材に答えていただいた2年生(向かって左から)高橋海風さん、布施百音さん、佐藤美乃里さん、眞鍋実穂さん。「コロナ禍で、活動の機会が制限されたが、部員の輪を広げるために、ゲームなどしたり楽しみながら活動をしている。」

(上山先生)

「マーチングは責任感が宿る。
吹奏楽の活動で培った経験を
社会に出てから役立ててもらいたい。」 (上山先生)

新発田中央高等学校は、平成28年に創立百周年を迎えた歴史ある私立高校。吹奏楽部は、毎年12月にチャリティーキャンペーンを行い、昨年で42回目となり、これまでに1,700万円あまりの義援金を新発田市に寄付するなど、地域貢献もしてきた。主な活動として、市民にも親しみのある新発田祭りでのパレードや成人式でのステージドリルのほか、吹奏楽コンクールやマーチングバンド大会に出場し、数々の賞を受賞している。取材に伺った日は、個人で音出しをし、その後メンバーが音楽室に集まり基礎合奏を行い、最後に卒業式や入学式に向けて練習している曲の合奏練習を行った。顧問の上山先生が手を上げると、生徒の表情が変わり演奏に集中する緊張感が伝わってきた。2年生幹部は、「部の目標スローガンは『勇猛果敢』。仲良く明るい雰囲気部の活なので、これからも楽しんで活動したい。」と答えてくれた。

今回のチャリティーキャンペーンは、令和5年12月17日(日)に新発田市民文化会館で開催される。取材に応じてくれた生徒さんたちの輝かしいパフォーマンスをぜひ見に行きたい。

新発田中央高校

検索

編集後記

市議会だよりを大きく見直してから、はや8号めとなりました。表紙には「今、輝いているまちの人」の紹介、特集では「新発田市の課題に係わる市と市議会の取組み」のお知らせ、愛称やキャラクターの募集など、市民の皆さんに参加していただける企画を盛り込みながら、編集を進めてきました。

思いがけないお褒めの言葉、あるいは「万人向け

に流れていて中身がない」とのご批判もいただきました。しかし、それらの評価は所期の目的である「手にとっていただける、読んでいただける市議会だより」に一步、近づいた結果だと感じております。

次号からは新メンバーによるさらなる刷新に期待し、大いにエールを送りたいと思います。

(文責・宮崎光夫)

【広報広聴委員】委員長／宮崎光夫 委員／板倉久徳・阿部聡・小林誠・加藤和雄・石山洋子

※ 2月定例会中の広報広聴委員です